

(6) その他

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間
1638	八木あかり	アメリカ合衆国 (シアトル) 7月30日 (火) ~ 8月22日 (木)
2635	山田果奈	ガーナ (アクラ) 7月19日 (金) ~ 8月6日 (火)
3324	石橋未来	第72回日本動物学会九州支部、第68回九州沖縄植物学会、第64回日本生態学会九州地区会 合同長崎大会 6月4日 (火) (長崎大学)
2327	甲村香奈子	日本財団海と日本 PROJECT 8月8日 (木)
2625 2637	田邊蒼来 山中千紘	第2回全国高校生SRサミット"FOCUS" 7月30日 (火) ~ 8月1日 (木) (立命館宇治高校)
2707 2712	木山慈斗 東原拓哉	All Japan High School Forum 2019 12月22日 (日) (東京国際フォーラム)
2625	田邊蒼来	Reconsidering Peace in Liberal Arts 1月11日 (土) ~ 1月13日 (月) 国際基督教大学
1218 1219 2709 2740	松本幸輝 山崎 渚 佐々野 雄 森田奈津子	WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業拠点校・事業連携校による FALCon デイスカッションフォーラム 2月8日 (土) ~ 2月9日 (日) 静岡三島北高校
2625	田邊蒼来	ICU Global Challenge Forum 12/14 (土)、1/18 (土)、2/8 (土) オンライン 3月19日 (木)・20日 (金) 国際基督教大学

原爆の被爆地・長崎とベラルーシの平和と友情の懸け橋に。ベラルーシ共和国は、日本各地の高校生を招く国際交流事業に関して、今年から長崎県の高校生を追加して招待している。7月24日から8月4日までの12日間、「日本・ベラルーシ友好派遣団」のメン

長崎県

バーとして、県立長崎東高校の国際科2年生の代表5人らが同国を訪問。出発に先立ち、メンバー5人は県庁を表敬訪問し、上田裕司副知事のほか、今回の長崎県からの高校生派遣を後押ししてきた公明党県議団の麻生隆國長が歓迎した。

被爆地から原発事故被害の国へ

平和と友情の懸け橋に

高校生、ベラルーシを訪問

原爆の被爆地・長崎とベラルーシの平和と友情の懸け橋に。ベラルーシ共和国は、日本各地の高校生を招く国際交流事業に関して、今年から長崎県の高校生を追加して招待している。7月24日から8月4日までの12日間、「日本・ベラルーシ友好派遣団」のメンバーとして、県立長崎東高校の国際科2年生の代表5人らが同国を訪問。出発に先立ち、メンバー5人は県庁を表敬訪問し、上田裕司副知事のほか、今回の長崎県からの高校生派遣を後押ししてきた公明党県議団の麻生隆國長が歓迎した。



日本・ベラルーシ友好派遣団の長崎東高校の生徒らから表敬訪問を受ける上田副知事(右から2人目)と、麻生団長(左端)。

上田副知事は「平和を希求し、グローバルな課題に關する予定という。国際教育委員会による、国際交流事業では、2018年から、これまで同様、様々な高校生がベラルーシを訪問。今年も長崎をはじめ、広島、岡山も加わり、合計約60人の高校生らが、現地の視察や研修などを通じて交流を深める予定という。

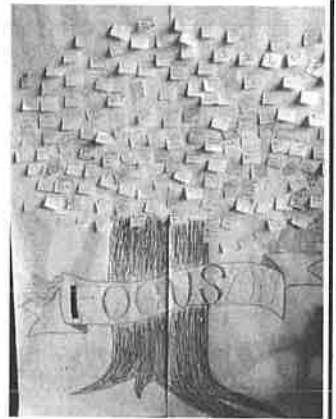
公明県議、大使の要請を裏につなぐ
昨年9月、ベラルーシ共和国のルスラン・イェン駐日特命全權大使が、国際機関や企業と連携して世界規模の課題研究などを行う「スーパーグローバルハイスクール」の県下唯一の指定校・長崎東高校を訪問した。麻生団長が県教育委員会などを通じて、同校来訪の成功を後押ししていた。また、その後、国際交流事業の参加対象に長崎の高校生を加えたいというルスラン大使の意向を知り、麻生団長が県庁と連携を重ね、派遣団の要請に応じた。

「学業してきた皆さんを送り出せることは心から嬉しい。必ず大きな財産になる。成功を願っている」と激励。麻生団長は「現地の方々と交流を通じて平和と友情の絆を築いてほしい」と大きな期待を寄せた。

第2回全国高校生SRサミット ～FOCUS～

7月30日(火)から8月1日(木)まで、立命館宇治中学校・高等学校(京都府宇治市、第101回全国高校野球選手権大会出場)と立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市)で全国高校生SR(Social Responsibility)サミットが開催され、東高から2年6組の山中千紘さんと田邊蒼来さんが参加しました。

サミットでは、各高校が研究課題を持ち寄り、他校の生徒とグループをつくり解決策を検討し再提案(プレゼン)するという活動を行いました。発表準備の際は、立命館アジア太平洋大学(APU)在学の学生(留学生含む)と有識者(社会人)が生徒達に研究要領を指導し、適宜アドバイスを送り、班活動をサポートしてくれました。東高の2人は夜遅くまで準備に取り組み、最終日に堂々とプレゼン発表しました。下記は、研修後の2人の感想です。



(田邊) 今回、このサミットに参加できたことで、数え切れないほどの事を学べ、今までの自分から大きく一歩成長できたと思う。また、これからより一層頑張ろうと思う原動力となった。

初日のプレゼンでは、聞いていた話とは違い、学校紹介などでは全くなく、焦ることから始まった。なんとか最初のプレゼンを終え、チーム分けが行われた。今回私は福岡雙葉高校のプロジェクト「Inclusive education」をバックアップすることになった。各学校、それぞれの研究の知識もあり、話し合いが終わることがなかった。

今回、2班に1人APUの学生が付きサポートしてもらった。私の班についての学生はシンガポール出身で、言語は英語はもちろん、日本語、中国語、マレー語などトリリンガルの域を超えていた。立命館宇治高校のあるコースの生徒は1年間ほどの留学が義務づけられており、ほとんどの人が日本語、英語に加え、クラスメイトの留学先の言語も理解できるらしい。

今回学んだことはこれでは語り切れないほどだが、それらは私に刺激、意欲を与え、前進するための大きな糧となった。SRサミットの3日間、ほとんどがプロジェクトについての話し合いや活動で大変ではあったものの、それをも忘れるほど楽しかったのもまた事実。心の底から充実していると感じた時間だった。



(山中) 今回SRサミットに参加して、特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、参加者(同じ高校生)の視野の広さや見識の深さです。私の班では、長崎東高校から出した「訪日外国人の熱中症予防」というテーマで話し合いを行いました。そこで、普段、学校ではなかなか聞けないような斬新なアイデアが次々に出て、かつ論拠もしっかりしていることに驚きました。

2つ目は協議の進め方についてです。このサミットではブレインストーミングを使い、樹形図のようにして原因を考えるような話し合いを行いました。これにより、テーマに関する問題点について、わかりやすく且つ全員が理解しやすい話し合いができました。このやり方をSGHの話し合いでも是非実践していきたいと感じました。

初日は他校のプロジェクトや生徒たちのやる気と熱意に圧倒され、私は少し気後れするところがありましたが、少しずつ慣れて他から活力をもらって研究課題の解決に取り組むことができました。最後まで皆は積極的かつ協力的で、取り組む姿勢などは本当に見習うことが多かったです。このサミットで学んだことを一度きりのものにつなげられないように、これからのSGHの研究発表につなげていきます。



日本・ベラルーシ友好派遣団2019活動報告

高2国際科 木山慈斗、藤谷朋子、中山浩思、田川瑞希、峯本麻衣

私たちは7月24日から8月4日までの12日間ベラルーシ共和国を訪問しました。長崎県のほか北海道、福島県、宮城県、大阪府、広島県、岡山県からおよそ150人の高校生が参加したこの派遣団での体験について報告します。

研修2日目～8日目 キャンプ地 “Zubryonok”



最初に滞在したズブリョーノックという場所は、日本でいう自然の家のような場所で、私たち日本人だけでなく、ベラルーシ国内やトルコから訪れていた、同じ年代の若者がたくさんいました。ズブリョーノックでは、毎日、朝の体操、健康プログラム、ディスコ（写真左上）、夜のたき火を行い、他にも、毎日違ったプログラムを行いました。また、ズブリョーノックは緑豊かな場所で、「ヨーロッパの肺」と言われています。その豊かな緑を活かして作られた「ターザンパーク」では、フィールドアスレチック（写真右上）を、またキャンプ場近くのナロチ湖ではモーターボート乗船体験（写真左下）を行いました。これらの活動の間には、英語を使って現地の若者たちと学校生活や趣味のことなどを話し合いました（写真右下）。



(中山)

健康リハビリ

私たちは、ズブリョーノックに滞在していた間、毎日、健康リハビリというプログラムに参加しました。私たち長崎メンバーは、昨年度本校を訪問されたベラルーシのルスラン・イエシン駐日大使とのご縁でこの研修に参加させていただきましたが、本来この研修は、2011年3月に発生した東日本大震災を始め、ここ数年間で災害の被害を受けた地域の高校生を対象とし、彼らが災害の傷を癒すために有効とされる治療が組み込まれていました。治療の例としては、強い酸味のために飲みづらかったですが、1杯で森林浴3時間分の効果があるとされている「酸素カクテル」（写真）や、霧状の塩を吸引する塩サウナ、アロマの部屋、ジャグジーやマッサージなどがあり、多忙なスケジュールの中ではリラックスできる時間でした。（田川）



ベラルーシの文化



私たちは、キャンプ場内の古代文化センターを訪れてベラルーシの文化に触れました。古代文化センターでは、民族衣装を着た女の子たちが伝統的なダンスを披露してくれただけでなく、途中で、私たちの手を取ってダンスの輪に入れてくれました（写真）。突然のことに戸惑いながらも、見よう見まねで踊って、ベラルーシの文化を体感できました。ここでは他にもベラルーシの伝統料理のドラニキ（ジャガイモでできたパンケーキ）を食べたり、ベラルーシの伝統工芸品を作ったりしました。（藤谷）

日本文化の紹介



現地の子供たちへの日本文化紹介では、長崎についてのプレゼンテーションを行いました（写真左）。プレゼンテーションでは長崎の地形、食べ物、お祭り、世界遺産、原爆の悲劇について説明し、私たちの故郷の良さを発信しました。また、長崎の伝統的な歌である「でんでらりゅうば」を披露し（写真下左）、温かい拍手をいただきました。次に、日本の文化として、現地の方たちの名前を漢字で表してあげたり、浴衣の着付け体験をさせてあげたりしました（写真下右）。これらの活動を通して、ベラルーシの子供たちと色々な話をし、交流を深めることができました。（峯本）



研修9日目～11日目 首都“Minsk”訪問



ズブリョーノックを後にして、ベラルーシの首都であるミンスクを訪れました。そこには、世界遺産であるネスヴィシュ城やミール城の他にも、たくさんの歴史ある建造物がありました。私たちは、現地の方の丁寧な説明を聞きながら、日本の風景とはかけ離れた、ミンスクのソ連時代の共産主義の名残のある整然とした町並みを肌で感じることができました。ベラルーシと長崎には一つの共通点があります。それは、長崎は原爆で、そしてベラルーシはチェルノブイリ原発事故で、ともに放射能の被害を受けたということです。ミンスクを中心街には長崎の浦上天主教堂から送られた鐘のレプリカ（写真左）があり、大切に保存されていました。また今回私はベラルーシの教育省を訪問し、教育大臣にお会いする機会もいただきました（写真右）。日本ではできないような経験をさせていただき、多くの刺激を受けました。この研修で学んだことを、これからの生活に活かして、日々の生活をより一層充実させていきたいと思えます。ベラルーシでの12日間は、生涯忘れることのできない日々となりました。このような機会を与えていただいたことに、心から感謝いたします。（木山）



グローバル課題研究ポスターセッション大会・ディスカッションフォーラム

2月8日（土）～2月9日（日）に静岡県三島北高等学校で行われたグローバル課題研究ポスターセッション大会、ディスカッションフォーラムに、1年2組の松本幸輝さん、山崎渚さん、2年7組の佐々野雄さん、森田奈津子さんが参加しました。

● グローバル課題研究ポスターセッション大会

ポスターセッション大会では、それぞれ自分たちの課題研究について発表しました。多くの意見やアドバイスを頂き、自分たちの研究において、様々な課題を見つけることができました。また、静岡の各学校のポスターセッションを見て、長崎東とはまた違ったユニークなテーマがたくさんありました。静岡ならではのテーマもあり、とても興味深く思いました。



● ディスカッションフォーラム

ディスカッションフォーラムでは、私たちが大人になったときに大きく変化しているであろう5つの社会課題、①女の子の職業選択②男性の育休③働きがいのある仕事④社会保障⑤プラスチックフリーの5つのテーマについて、それぞれチームに分かれディスカッションを行いました。ディスカッションの後は、これらの社会課題を高校生がローカルなレベルで解決するためのアクションについて課題や効果などを考え、他校の参加を促すことを目的とする動画をチームごとに作成しました。普段なかなか考えることのないこれらのテーマについて考えることで、それらの課題は自分たちの身近にあるものだと感じられました。また、他県の同じ高校生と交流することで多くの刺激を受けました。一人一人が意見を出し合い、1つのものをつくりあげる達成感も感じることができました。

この二日間で多くのことを学びました。その中で自分たちにまだまだ足りないと思ったのは、積極性、知識、そしてコミュニケーション力です。これらはどのような場においても大切なことなので、これからもっと成長させていきたいです。また今回の貴重な経験をしっかりとSGHの研究にいかしていきたいです。



④普通科（SGH非対象生徒）の取組

総合的な学習の時間『探究』

1) 目的

地域の現状・課題を踏まえた「地方創生」に関連する探究活動を展開することで、他者との協調のもと、地域の問題解決等に主体的に関与できる地域人材の育成や地元定着・還流への土台作りを目指す。

また、理系班はテーマに沿った実験や観察を取り込んだ検証をすることで、科学的な考察力やデータ分析力の育成を目指す。

2) 期待される効果

地域における問題を考えることが日本への深い造詣への入り口となる。また課題解決学習やグループワークをとおして責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップ、自分の考えを効果的に伝える力を養うことができる。

研究テーマ一覧

班	文 系	班	理 系
1	放課後子ども教室を多くの人に知ってもらうために	1	不眠解消 ～食生活を改善してしつよい睡眠をとろう!～
2	長崎県内での待機児童数の格差を減らすには	2	長崎キッズ肥満症対策
3	長崎全体の教育の質を高めよう	3	孤独死の増加を防ぐことはできるのか?
4	五島列島の魅力をPR	4	長崎県のがん罹患率を下げることは可能か?
5	ICT 教育を活用して離島の子供たちの想像力を刺激し 感性を豊かに!	5	高齢者の免許の自主返納を進めるには
6	長崎県民の運動量を増やすには	6	NICE NAGASAKI INCLUSIVE CHILD EDUCATION
7	長崎の音楽を使って 長崎の子どもたちの郷土愛を育むには	7	NBD ～眠気ぶつとび大作戦～
8	公衆トイレをデザインして長崎らしさを伝えよう	8	長崎の外国人宿泊観光客を増やすには
9	離島の復興 ～人口減少の抑制～	9	長崎市の若者の人口流出を防ぐ都市開発
10	長崎の雇用口を増やすためには	10	自動車と歩行者との接触事故を防ぐ
11	長崎の観光を盛り上げよう!	11	目が見えない人がデザインを楽しむには
12	長崎への修学旅行生を増やそう	12	多目的ニュータウンを計画する
13	長崎の夜景ガイドマップを作ろう	13	長崎の工業を発展させる
14	地域コミュニティのモデルを提案しよう	14	長崎の観光業にAIを導入し、労働人口の確保と補償を
15	NO!ちゃんぼん NO!カステラ	15	高齢者と僻地に住む人々に送る、次世代の技術
16	長崎市からの若者の流出を防ごう!	16	災害時に空き家を 活用できるか?
17	長崎県民のおもてなしでインバウンド増加へ ～ICTを活用して～	17	坂の町長崎が住みやすい町になるためには
18	地域活性化のために日本人観光客を増加させよう	18	情報技術を活用して外国人観光客との意思疎通ができるか
19	日本語教育によって長崎の人口問題を解決する	19	プラスチックによる海洋汚染の進行を防ぐには
20	一日だけじゃ物足りない! ～長崎の魅力がいっぱい詰まった観光コース～	20	ジャガイモのでんぷん量 北海道 v s 長崎
21	離島について	21	これからの生活習慣病予防
22	長崎と日本と世界と。 ～ densya で connect ～	22	A I と薬剤師の関係の築き方
		23	薬をもらった後の安全
		24	SUGGESTING GEOPARK PROJECT
		25	長崎のみかんの消費量を上げるために
		26	3 R から地方創生を考える

令和元年度高2・高3普通科「探究」について

育成したい人物像

- ・グローバルな課題の解決に向けて積極的に行動できるリーダー
 - ・地域が抱える課題を発見し、積極的にその解決を図ることのできる、未来を担う知的リーダー
- 養いたい力

課題を発見する力、情報を収集・分析・活用する力、論理的に思考し判断する力
協働する力、よりよい社会を目指そうとする力、郷土を愛する力

方法

文理別の班（3～5人）単位。教師はコーディネーター役。
時間割の都合上、文系理系の2ユニット（PC室の関係）。

実施 GSⅡ-F（グローバルスタディⅡ-普通科）

月	日	内容	備考
4	10	探究オリエンテーション	探究担当者よりプレゼン
	17	学部学科研究	PC教室にて大学HPを調べる
	24	講義「長崎県の実情を知る」 ～長崎県における地方創生へ向けた取組～	県企画振興部政策企画課より来校
5	8	進路学習	志望校の学部学科をパソコンで調べる。 進路希望調査票提出。
	15	課題研究のテーマ設定1	PC教室にてクラス個人単位
	22	課題研究のテーマ設定2	*1. テーマが自分の進路希望（学部学科） に沿ったものか 2. テーマが地域（長崎市またはあなたが 居住する市町）の課題かどうか
	29	課題研究のテーマ設定3	進路希望別班編成実施
6	12	課題研究のテーマ設定4	グループワーク 各自テーマを持ち寄り班内で検討。
	19	課題研究1	
7	3	課題研究2	
	10	課題研究3	
	18	課題研究4	県庁企画振興課による指導助言1
9	3		体育祭練習
	11		月曜授業
	18	課題研究（話し合い）	班毎の進捗状況確認
	25	課題研究	
10	2	課題研究	
	9	課題研究	県庁企画振興課による指導助言2
	16	課題研究（プレゼン作成）	
	23	課題研究（プレゼン作成）	
	30	課題研究	プレゼンデータ提出①
11	6	修学旅行に向けて（交流会準備）	
	13	修学旅行に向けて（交流会準備）	
	20		修学旅行 19(火)～23(土) 交流会
	27	課題研究情報収集、プレゼン作成、話し合い	
12	4		定期考査
	11	課題研究情報収集、プレゼン作成、話し合い	
	18	プレゼン(スライド)提出〆切	データはUSBに保存して担当者へ ⑤～⑦ SGH SGⅡ 中間発表会（国際科）
1	8		校内実力
	15	発表会に向けて発表練習	研究レポート提出1（班）
	22	発表会に向けて発表練習	
	29	⑤⑥課題研究学年発表会	プレゼン発表（各教室）
2	5	発表会振り返り、発表文集作成（データ修正等）	研究レポート提出2（班）
	12		1月29日と授業振替
	19	課題研究発表会準備	
	25	課題研究発表（教室） *6班はステージ発表	SGH 課題研究発表会ⅠⅡ
	26	課題研究発表会の振り返り	

*3月に予定していた個人論文作成は休校になったため次年度実施。

G S III - F (グローバルスタディII - 普通科)

月	時	内 容	備 考
3	2	個人論文作成構想①	
		個人論文作成構想②	
4	1	論文作成のマナについて	
	1	個人論文作成	
5	2	個人論文作成	
6	2	個人論文作成	個人論文は九州SGHフォーラムに出品
	1	個人論文発表会	
7	1	個人論文発表会	
	1	個人論文発表会の振り返りとまとめ	

3) 内容

週1単位の「探究」（総合的な学習の時間）に、長崎県企画振興部政策企画課および生涯学習課と連携し、「地方創生」をテーマに、長崎県の抱える諸問題を解決するための方策について、1年間グループワークを行った。本年度も海外修学旅行中にマレーシア工科大学を訪問し、現地学生と研究内容について英語による意見交換を行った。

3月に実施予定だった県庁におけるプレゼンテーションは諸事情により中止となった。

4) 成果と改善

県企画振興部政策企画課と連携した本事業への参加者はH28年度が31名、H29年度が64名であったが、昨年度と本年度は普通科全員（193名）が取り組んだ。高校1年次の「ナガサキタイム」を中心にSGH事業で取り組んだ課題研究活動をベースとして、自分たちが暮らす長崎の現況を知り問題解決に取り組むことで、地元を見つめ直す契機となり、また修学旅行などで訪れた諸外国の取組を参考にすることでグローバルな視点を育むことができた。グループワーク、プレゼンテーション発表などにおいて、他と協働する力、自分の考えを効果的に伝える力を育むことができたと考える。さらに、SGH対象生徒である国際科の生徒と合同でプレゼンテーションをすることで、お互いが刺激し合っている。国際科はグローバルに、普通科はローカルを中心に焦点化することで、グローバルな学びを育むことにつながっていると考える。

今年度の改善点として国際科の生徒や高校1年生と合同で長崎大学や長崎県立大学を訪問し、教授等から研究助言を得た。生徒からも「お互いに研究内容について討議することで、同じような研究テーマでも複数の視点から学びを深めることができた」とのコメントがあった。

次表のとおり、ベネッセコーポレーションが実施するGPSテスト結果によると、特に創造的思考力においてA評価（高校卒業レベル）以上の割合が高い結果となった。全国集計と比較するとA評価以上については有意差は認められないものの、C評価以下に関しては本校普通科の割合は低い数値となっている。グループ型の「地方創世型」探究学習をとおして、情報の収集・分析・類推、レポート作成、口頭発表を行ってきた成果と考える。

高2 全国 (33436名)	思考力テスト結果		
	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力
	総合評価	総合評価	総合評価
S	0.4%	0.3%	1.4%
A	32.8%	29.8%	37.4%
B	58.3%	56.2%	50.7%
C	8.3%	12.8%	10.4%
D	0.2%	0.9%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

高2普 (158名)	思考力テスト結果		
	批判的 思考力	協働的 思考力	創造的 思考力
	総合評価	総合評価	総合評価
S	0.0%	0.0%	0.6%
A	35.4%	33.5%	43.0%
B	61.4%	56.3%	48.7%
C	3.2%	10.1%	7.6%
D	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

⑤令和元年度SGHジュニアの取組について

I 「総合」「LHR」「教科（英語、社会）」等で実施分

取組	学年	実施日	実施内容
SGH 基調講演会	3年生 (高1生)	5月7日(火) 7校時	「羽ばたけ！ひがしから世界へ」 長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐 山下龍先生 「自分で考える、決める、行動する」ことの大切さについて語られた講演を通して、グローバルな視点やローカルな視点だけではなく、グローカルな視点を持つことの必要性を学んだ。
JICA との連携事業	1年生	5月10日(金) 3～5校時	国際理解ワークショップ 「世界がもし100人の村だったら」 JICA デスク長崎 国際協力推進員 茂田 敬介氏 ① 世界には多様な言語や文化を持つ人々が様々な環境の中で生活しており、貧富の格差や解決すべき問題があることを体験的に学ぶ。 ② 国際社会の一員として、適切な世界観を身につける一歩とする。 ③ よき世をつくる10の力のうち特に協調力を養う。 昼休みに講師を囲んで座談会を実施
イングリッシュデー	1年生	10月25日(金) 5～6校時	本校 ALT 2名と県内10名の ALT を招聘して実施 ① 日頃の英語学習を活かし、英語で活動することの喜びを経験する。 ② ALT との活動を通し、異文化理解を深める。
グローバル講演会	2年生	11月25日(月) 3～4校時	「ソーシャルビジネスで世界を変える」 ポストアンドポスト代表取締役社長 吉田 照喜氏 ① 長崎から世界へと目を向け、国際的視野を持つ人間になるために必要な資質とは何かを考える。 ② 一人ひとりが世界平和を希求する精神と地球規模の課題を自分のものとして捉えようとするグローバルマインドを養う。 講演会後は講師を囲んで座談会を実施
グローバルデー	全学年	12月23日(月) 5～6校時	① 英語表現への関心を深め、英語で発表することの喜びを経験する。 ② 英語で自分の考えを効果的に伝えるコミュニケーション能力を育成する。 ③ 授業を通して学んだ異文化の奥深さと多様性を理解し、効果的に伝えるプレゼンテーション能力を育成する。 種目 ビブリオバトル：全学年 教科書暗唱(スキット発表)：1学年 レシテーション：2学年 スピーチ：3学年 プレゼンテーション：3学年
グローバルリーダー養成講座 (探究講演会)	3年生	1月29日(水) 5～6校時	「ウキウキ・ワクワクで未来を拓く～創造的で科学的な探究活動を進めるために」 山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター 陣内秀樹先生
長崎東 SGH 課題研究発表会 I・II	3年生	2月25日(火) 3・4校時	高校1年生によるポスターセッション・プレゼンテーション発表を聴講

[生徒感想抜粋]

- 世界の中で、私たちのように「水道をひねると水が出る」ことを当たり前にかけている人の数の少なさに息をのんだ。小学校の時に、開発途上国の人々が、「子どものとき仕事をしなくてはならない」ということを習ったが、今の私には知ること以外にできることはないと思っていた。しかし、JICAの活動を聞いて、国を動かすほどの力がある人でなくても、食材を残さない、募金活動をするなど、さまざまな活動で助けることができるのだと分かった。開発途上国に送っている食材よりも、日本で捨てている食材の方が多いうえに、1日、1.25ドル以下で生活している人も多くいると知り、もっと私たちが心がけから変えていくべきだと思えた。 [1年 国際理解ワークショップ]
- 私は今日の講演会で、世界レベルでの問題について考えることができました。貧困や紛争など遠い国の話だと思っていたこともありましたが、意外と身近なことであり、真剣に向き合うべきだと感じました。社会起業家の方はいろいろなリスクもあると思うので、本当にすごいと思います。他人のために行動できることのかっこよさがよく分かりました。私にはそんなに大きなことはできないかもしれませんが、少しでも周りの人のためになることをしたいです。そのためにたくさんの人と出会ったり、本を読んだりするよう心がけます。そして自分の興味があることを全力で追求するようにします。それが正しいことに繋がるかは分からなくても、様々なテーマを見つけられたらいいです。今日の講演会での学びや感想を忘れないようにしたいです。 [2年 グローバル講演会]

II その他の事業（参加を募集・案内したもの）

事業名	対象学年	内容	参加者など
ドイツ平和村代表と高校生の交流会	全学年	4月20日（土） 長崎大学医学部 良順会館	参加者 3年生 11名 2年生 6名
南日本カルチャーセンター アカデミックホームステイ	全学年	7月30日（火）～8月21日（水） アメリカ ワシントン州 ポートオーチャード	参加者 3年生 岩本 遥 大場 日向子 松田 さつき 溝口 花恋 向井 春賀
子どもゆめ体験（長崎市国際課）	全学年	8月21日（水）～29日（木） イギリス ロンドン アパディーン （長崎市内在住中学生14名募集）	参加者 3年生 大渡 玲央 坂本 ひなた 松尾 優花 校内応募者数 33名
海外語学研修	2年生 （高1生）	3月25日（水）～4月1日（水） オガ・バンクーバー、オレゴン市 ESL, プライツェンコロンビア大学訪問など	参加者 2年生 30名 予定 （高校1年生 47名）
国内語学研修	2年生 （高1生）	3月26日（木）～3月28日（土） ハズテンボス、イングリッシュスクエア 街頭英語、ミッションフィールド英語など	参加者 2年生 69名 予定 （高校1年生 33名）

III 各種大会等

大会名	開催日	会場	出場者
高田宮杯第71回全日本英語弁論大会長崎県大会	10月5日	活水女子大学	3年 河原 寛太 3位 中央大会出場 中村舞璃亜
第23回長崎新聞社中学生英語暗唱大会（本選）	10月27日	長崎新聞社	3年 中村舞璃亜
令和元年度長崎県イングリッシュパフォーマンスコンテスト	1月25日	長崎県庁大会議室	2年 諸藤菜々 優秀賞
JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト			3年 秋山琴美 国際協力特別賞 （2年連続受賞）

〈イングリッシュデー〉



〈グローバルデー〉



〈高田宮杯英語弁論大会〉

